

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/16

地合いは「リスク・オフ」か

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↘	RBA 議事録に関心が集まる 予想レンジ: 83.40 ~ 87.40 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	→	手掛かり材料難で小動きか 予想レンジ: 61.80 ~ 65.50 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↘	南ア4月小売とCPIに注目 予想レンジ: 11.20 ~ 11.90 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 5/9～13の主な推移



5/9 Monday	格付け会社S&Pがギリシャの格付けを従来の「BB-」から「B」へと2段階引き下げ、見通しは引き続きネガティブとした。これを受けて欧米株が下落すると、市場ではリスクを回避する動きとなり、豪ドル/円は下落した(①)。
5/10 Tuesday	豪3月貿易収支は17.40億豪ドルの黒字と、事前予想(5.00億豪ドルの黒字)を大きく上回ったことを受け、豪ドル/円は86.68円まで上昇した(②)。また欧州株の堅調推移に加え、米国債利回りの上昇に伴いドル/円で円売りが進んだことも重なり、豪ドル/円は続伸した。
5/11 Wednesday	時間外の原油や金価格の上昇を背景に、豪ドル/円は一時88.00円まで値を上げた。また欧州時間に公表された英中銀(BOE)四半期インフレレポートでは、中期的なインフレ見通しが引き上げられた事などを背景にBOEの早期利上げ観測が高まり、ポンド/円が大きく上昇。豪ドル/円はこれに連れて88.09円まで上昇した(③)。
5/12 Thursday	豪3月失業率は4.9%と、事前予想通りの結果となった。しかし新規雇用者数は常勤雇用者数の大幅減(4.91万人減)を理由に2.21万人減となり、予想(1.70万人増)を大きく下回った。これを受け豪ドル/円は85.90円まで急落(④)。その後も原油価格や欧州株の下げに伴い、豪ドル/円は85.32円まで下落した(⑤)。
5/13 Friday	NYダウ平均が一時150ドル以上下落したことに加え、原油価格が下落したことも相まって、豪ドル/円は一時84.88円まで値を下げた(⑥)。

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

今週の見通し

今月に入り商品相場や株式相場が乱高下しており、豪ドル/円はこれらに左右されやすい展開が続いたことから、今週も豪ドル/円は株価や商品相場をにらみながらの展開が予想される。株安や商品安が進む場面では、リスク回避の動きから豪ドル/円には下落圧力が掛かることが予想され、一方で株価や商品価格が上昇する場面では、リスクを積極的に取る動きから豪ドル/円は買われやすいと見られる。

そのほか豪州では17日に、5月2日に開催された豪準備銀行(RBA)理事会の議事録の公表が予定されている。政策金利発表後の声明では、基調インフレが今後上昇するとの見方を示し、今後数カ月以内の利上げの可能性に含みを持たせる内容が伝えられた。議事録の公表を受け、市場にて再びRBAの早期利上げ観測が高まるようだと、豪ドル/円上昇の糸口となることも考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 83.40~87.40 円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●AUD/JPY 5/13週足引値:85.40円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は84.30円(5/5安値)まで下落した後の戻り高値も88.09円(5/13)までとなり、20日線に上値を阻まれ、足取りの弱さが目立った。今週は先週の流れを引き継ぎ、下値を試す動きが先行する可能性がある。

ボリンジャーバンドは5/13現在、上限:89.77円~下限:84.94円と、バンド下限が下値支持として機能はしているが、緩やかに下向きとなっている。目先は下値模索の動きが先行する展開が先行すると見られ、ローソク足がバンド下限を下抜けるようだと、一段の下げ余地が生まれそうだ。

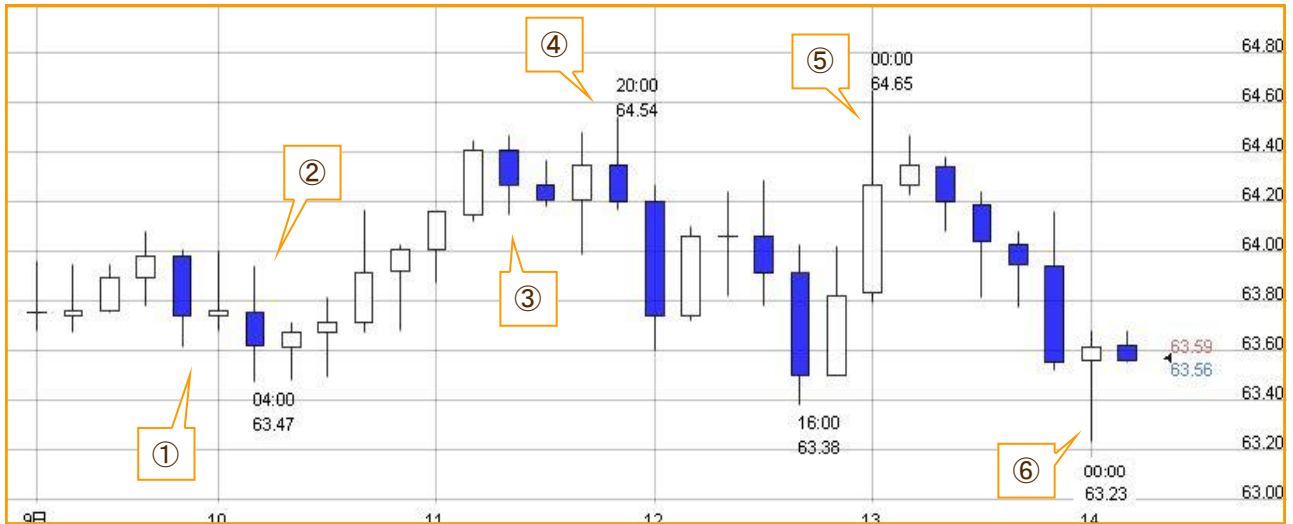
移動平均は20日線(5/13時点では87.36円)が下向きとなり、上値抵抗となっている。60日線(同、85.23円)は辛うじて下値支持として機能しているが、引値レベルでも割り込むようだと、短中期では200日線(同、82.18円)に向けた下押しも想定される。

上値ポイントは①86.47円(5/13高値)、②87.36円(20日線)、③88.09円(5/11高値)であり、下値ポイントは①84.30円(5/5安値)、②83.38円(3/17安値74.25円-4/11高値90.00円の値幅15.75円の1/2下押し)、③82.18円(200日線)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 5/9~13の主な推移



5/9 Monday	格付け会社S&Pがギリシャの格付けを従来の「BB-」から「B」へと2段階引き下げ、見通しは引き続きネガティブとした。これを受けて欧米株が下落すると、市場ではリスクを回避する動きへとつながり、NZドル/円は下落した(①)。
5/10 Tuesday	早朝に国際通貨基金(IMF)は年次審査報告にて、NZドルは20%過大評価されている可能性があるとの見解を示した。これを受けNZドル/円は発表前の水準から30銭近く急落し、63.47円まで値を下げた(②)。
5/11 Wednesday	NZ準備銀行(RBNZ)のボード総裁は「NZドルは好ましくないほど高い」と発言。市場ではこのNZドル高けん制発言を受け、NZドル/円は64.15円まで下げた(③)。しかし欧州時間に公表された英中銀(BOE)四半期インフレレポートでは、中期的なインフレ見通しが引き上げられた事などを背景にBOEの早期利上げ観測が高まり、ポンド/円が大きく上昇。NZドル/円はこれに連れて64.54円まで値を上げた(④)。
5/12 Thursday	原油価格や欧州株の下落により、市場はリスクを取ることに消極的となると、NZドル/円は63.38円まで下落。しかしNY市場に入り、下げて始まったNYダウ平均や原油先物が上昇に転じ、その後も上げ幅を拡大すると、NZドル/円は64.65円まで値を上げた(⑤)。
5/13 Friday	NYダウ平均が一時150ドル以上下落したことに加え、原油価格が下落したことも相まって、NZドル/円は63.23円の安値をつけた(⑥)。

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今週の見通し

今週もNZでは主だった経済指標の発表が予定されておらず、主要国の株価や商品相場に左右されやすい展開が予想される。商品安・株安によりリスク回避の動きが強まる場面では、NZドル/円には下げ圧力が掛かりやすい。それまでの下げに対するリバウンドにより株価や商品価格が反発したとしても、相場下落の直後であることから、市場はすぐに楽観的な見通しのもとに株式や商品を買進めるとは考えにくく、NZドル/円の上昇は引き続き限られる可能性がある。(川畑)

(予想レンジ: 61.80~65.50円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●NZD/JPY 5/13週足引値63.56円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は5/5に62.54円まで下落するも、その後は64円台半ばでの上値の重さが嫌気され、目先は下値を再び試す展開が先行しそうである。その場合は200日線で再び反発できるかが攻防の分岐点となる可能性がある。

ボリンジャーバンドは5/13現在、上限:66.73円~下限:62.86円と、バンド幅は緩やかに下向きとなっている。バンド下限は何とか下値支持として機能してはいるが、ローソク足場がバンド下限を押し下げる動きとなる場合、相場には一段の下げ圧力が掛かると見られる。

移動平均は20日線(5/13時点では64.79円)が下向きとなり、上値抵抗として機能している。ただ60日線(同、63.04円)や200日線(62.54円)が下値として機能しており、短期的にはこれらを試す動きも予想される。

上値ポイントは①64.65円(5/12高値)~63.79円(200日線)、②65.49円(5/3高値)、③66.71円(4/6高値)であり、下値ポイントは①63.04円(60日線)、②62.54円(200日線)、③61.73円(2010年12/23安値)である。(川畑)

ZAR/JPY

ランド/円 5/9~13の主な推移



<p>5/9 Monday</p>	<p>原油や金価格の上昇によりリスクを積極的に取る動きとなると、ランド/円は12.10円まで上昇した(①)。しかしその後、格付け会社S&Pがギリシャの格付けを従来の「BB-」から「B」へと2段階引き下げ、見通しは引き続きネガティブとした。これを受けて欧米株が下落すると、リスク回避の動きからランド/円は下落した。</p>
<p>5/11 Wednesday</p>	<p>ガソリン在庫の増加による原油相場の大幅安に加え、NYダウ平均が一時180ドル以上下げた事を背景にリスク回避の動きが強まり、ランド/円は下落した(②)。</p>
<p>5/12 Thursday</p>	<p>南ア準備銀行(SARB)は市場の予想通り、政策金利を年5.5%にて据え置くことを発表した。その時のマーカスSARB総裁の会見では、利上げ・利下げどちらの材料も示されなかったことから、市場での反応は限定的となった(③)。</p>
<p>5/13 Friday</p>	<p>NYダウ平均が一時150ドル以上下落したことに加え、原油価格が下落したことも相まって、ランド/円は一時11.43円まで下落した(④)。</p>

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今週の見通し

今月に入り商品相場や株式相場が乱高下しており、ランド/円はこれらに左右されやすい展開が続いた。今週もランド/円は株価や商品相場に左右されやすい展開が予想される。株安や商品安が進む場面では、リスク回避の動きからランド/円には下落圧力が掛かる可能性がある。それまでの下げに対するリバウンドにより株価や商品価格が反発したとしても、相場下落の直後であることから、市場はすぐに楽観的な見通しのもとに株式や商品を買進めるとは考えにくく、ランド/円の上昇は限られる可能性がある。

そのほか今週17日、南アフリカでは4月消費者物価指数と3月小売売上高の発表が予定されている。特に小売売上高について、前回3月は発表された数値が予想を大きく下回り、市場では南アフリカ準備銀行(SARB)の年内の利上げ観測が後退するとの見方からつながった。今回も市場予想(本稿執筆時点では前年比+6.3%)を下回るようだと、ランド/円には下落圧力がかかる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ:11.20~11.90円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●ZAR/JPY 5/13週足引値:11.53円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は200日線を下抜け、更にはローソク足がバンド下限を押し下げる動きへとつながり、下値模索のさなかにあると言える。5/13安値(11.43円)は11.39円(3/17安値10.50円-4/8高値12.84円の値幅2.34円の61.8%下押し)近くで下げ止まった。しかし、ここで下げ止まったとの印象は薄く、今週も下値模索の動きが続くことが予想される。

ボリンジャーバンドは5/13現在、上限:12.51円~下限:11.61円と、ローソク足はバンド下限を押し下げて下落しており、目先は下値を試す動きが先行しそうである。

移動平均は20日線(5/13時点では12.06円)が下向きとなり、上値が重い。また60日線(同、11.99円)、200日線(同、11.88円)は横ばいではあるものの、今後20日線がこれらを下抜けるようだと、下押し圧力が一段と強まることも考えられる。

上値ポイントは①11.79円(5/5安値)~11.88円(200日線)、②12.06円(20日線)、③12.10円(5/9高値)であり、下値ポイントは①11.43円(5/13安値)、②11.28円(前述の値幅2.34円の2/3下押し)、③11.13円(2/4安値)である(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/16~19)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/16 (月)	08:50		(日) 3月機械受注 [前月比]	-2.3%	-10.2%
			(日) 3月機械受注 [前年比]	+7.6%	-8.8%
	18:00		(ユーロ圏) 4月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.8%	--
	18:00		(ユーロ圏) 3月貿易収支	-15億EUR	--
	21:30	○	(米) 5月ニューヨーク連銀製造業景気指数	21.70	20.00
	22:00	○	(米) 3月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+269億USD	--
		○	(米) 3月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+977億USD	--
	23:00		(米) 5月NAHB住宅市場指数	16	17
5/17 (火)	10:30	○	(豪) RBA議事録	--	--
	17:00		(南ア) 4月消費者物価指数 [前年比]	+4.1%	+4.4%
	17:30	◎	(英) 4月消費者物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.7%
		◎	(英) 4月消費者物価指数 [前年比]	+4.0%	+4.1%
	17:30		(英) 4月小売物価指数 [前月比]	+0.5%	+1.0%
	18:00	◎	(独) 5月ZEW景況感調査	7.6	5
	18:00		(ユーロ圏) 5月ZEW景況感調査	19.7	--
	20:00		(南ア) 3月実質小売売上高 [前年比]	+5.6%	+6.3%
	21:30	◎	(米) 4月住宅着工件数	54.9万件	57.0万件
	21:30	○	(米) 4月建設許可件数	59.4万件	59.0万件
	22:15	○	(米) 4月鉱工業生産 [前月比]	+0.8%	+0.4%
	22:15		(米) 4月設備稼働率	77.4%	77.6%
5/18 (水)	07:45	○	(NZ) 第1四半期生産者物価 [前期比]	+0.2%	--
	17:30	◎	(英) BOE議事録	--	--
	17:30	◎	(英) 4月失業率	4.5%	4.5%
	17:30	◎	(英) 4月失業保険申請件数	+0.07万件	+0.1万件
	18:00		(ユーロ圏) 3月建設支出 [前月比]	-0.7%	--
	21:30		(加) 4月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	--
	21:30		(加) 3月卸売売上高 [前月比]	-0.6%	+1.5%
	27:00		(米) FOMC議事録(4月27日分)	--	--
5/19 (木)	08:50	○	(日) 第1四半期GDP・一次速報 [前期比]	-0.3%	-0.5%
		○	(日) 第1四半期GDP・一次速報 [前期比年率]	-1.3%	-2.0%
	13:30		(日) 3月鉱工業生産・確報 [前月比]	-15.30%	--
			(日) 3月鉱工業生産・確報 [前年比]	-12.90%	--
	17:30	○	(英) 4月小売売上高指数 [前月比]	+0.2%	--
		○	(英) 4月小売売上高指数 [前年比]	+0.9%	--
	21:30	◎	(米) 5/14までの週の新規失業保険申請件数	43.4万件	--
	21:30	○	(米) 4月中古住宅販売件数	510万件	520万件
			(米) 4月中古住宅販売件数 [前月比]	+3.7%	+2.0%
	21:30	◎	(米) 5月フィラデルフィア連銀景況指数	18.5	20.5
	21:30		(米) 4月景気先行指数 [前月比]	+0.4%	+0.1%

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (5/20)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/20	未定	○	(日) 日銀金融政策決定会合	0.1%	--
(金)	15:00		(独) 4月生産者物価指数 [前年比]	+6.2%	+6.0%
	17:00		(ユーロ圏) 3月経常収支	-72億EUR	--
	20:00	○	(加) 4月消費者物価指数 [前月比]	+1.1%	+0.5%
		○	(加) 4月消費者物価指数 [前年比]	+3.3%	+3.4%
	21:30	○	(加) 3月小売売上高 [前月比]	+0.4%	+0.9%
	23:00		(ユーロ圏) 5月消費者信頼感・速報	-11.6	--

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com